

ピンナガ 北大西洋

Albacore *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長 130 cm、40 kg
- 寿命：10 歳以上
- 性成熟年齢：5 歳頃（50% 成熟年齢）
- 産卵期・産卵場：主に、西部では北緯 25~30 度、中部から東部では北緯 10~20 度
- 索餌期・索餌場：温帯域（北緯 25 度以北）
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：マグロ・カジキ類、サメ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料

漁業の特徴

ビスケー湾でスペインのひき縄及び竿釣りで、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣りで 1950 年代以前の古くから漁獲されてきた。1980 年代後半から、これらの伝統的表層漁業に加え、新しい表層漁業である流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲は多くを台湾が占め、1960~1980 年代に多かったがその後減少し、表層漁業による漁獲よりも小さくなっている。日本はクロマグロやメバチを対象としたはえ縄操業の混獲として漁獲している。

漁獲の動向

本資源の年間総漁獲量は 1960 年代中頃（約 6 万トン）をピークに、徐々に減少している。その原因是主としてひき縄、竿釣り及びはえ縄等の伝統的な漁法の努力量の減少による。近年では 1999 年の約 3.5 万トンから 2002 年の約 2.3 万トンまで減少した。その後、表層漁業による漁獲量が増加して、2006 年に約 3.7 万トンにまで回復した。しかし、2007 年から表層漁業及びはえ縄の両方の漁獲量が大きく減少し、2009 年には約 1.5 万トンとなった。これは 1950 年以降で最低であった。2010 年以降、増加傾向に転じ、2022 年は約 3.2 万トンを記録した。国別では、スペインが最も多く約 1.7 万トン、日本は 301 トンであった。日本・台湾・スペイン・フランス・アイルランドは過去 5 年平均と同様であった。

資源状態

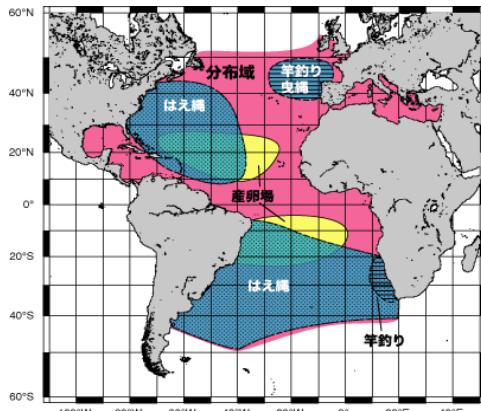
2023 年の最新の資源評価では 2 種類のモデルが用いられ、そのうち資源統合モデル (SS3) が資源状態記載に用いられた。資源評価には 1930~2021 年のデータを用い、今回の資源評価では、前回資源評価同様に漁業のデータの良質さ（カバーする海域・期間の多さや精度）を考慮し、かつ単位努力量当たりの漁獲量 (CPUE) トレンドの相関から歴史的に類似の CPUE トレンドを示す 5 種類の漁業（台湾のはえ縄、日本のはえ縄（1988~2021 年、ただし 2013 年は除く）、スペインの竿釣り、ベネズエラのはえ縄、米国のはえ縄）を抽出して用いた。ベースケースモデルより推定された MSY の中央値は 41,995 トン、相対資源量 SSB_{2021} / SSB_{MSY} の中央値は 2.19、相対漁獲係数 $F_{current} / F_{MSY}$ の中央値は 0.45 であった。過剰漁獲でありかつ乱獲状態である確率は 0%、過剰漁獲ではないが、乱獲状態である確率は 0.4%、過剰漁獲・乱獲状態にない確率は 99.6% と推定された。

管理方策

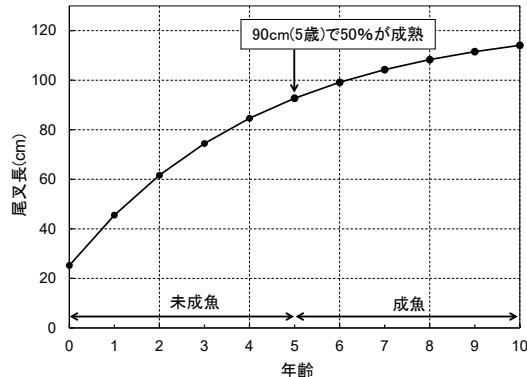
ICCAT により、1999 年から、漁獲能力を抑えるために入漁隻数が 1993~1995 年の平均隻数に制限され、総漁獲可能量 (TAC) も設定されている。2024~2026 年の TAC は、2017 年 11 月に採択された漁獲管理ルール (HCR)（2021 年にはこれを含む MP (管理方式) を採択) 及び 2023 年に実施した資源評価に基づき、47,251 トンと勧告された。また日本については、「北大西洋ピンナガを目的とした操業を行っていないので「本種の漁獲量が北大西洋全体のはえ縄操業によるメバチ漁獲量の 4.5% 以下になるよう努力する」という規制が課せられている。

ピンナガ（北大西洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	29,786～34,922トン 最近(2022)年: 31,654トン 平均: 31,806トン (2018～2022年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	196～334トン 最近(2022)年: 301トン 平均: 271トン (2018～2022年)
資源評価の方法	非平衡プロダクションモデル(mpb) 及び統合モデル(SS3)
資源の状態 (資源評価結果)	$SSB_{2021} / SSB_{MSY} = 2.19 [1.21 \sim 4.01]^*$ $F_{current} / F_{MSY} = 0.45 [0.29 \sim 0.71]^*$ 2021年の資源状態は、乱獲でなく、過剰漁獲でもない
管理目標	MSY: 41,955 [38,860～45,130]*トン
管理措置	・入漁隻数の制限 ・TAC: 47,251トン (2024～2026年) ・漁獲管理ルール(HCR)による管理 ・日本については漁獲量を大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の4.5%以下とする努力義務
管理機関・関係機関	ICCAT
最新の資源評価年	2023年
次回の資源評価年	2026年(予定)

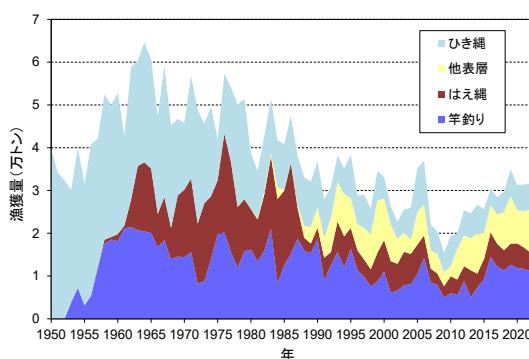
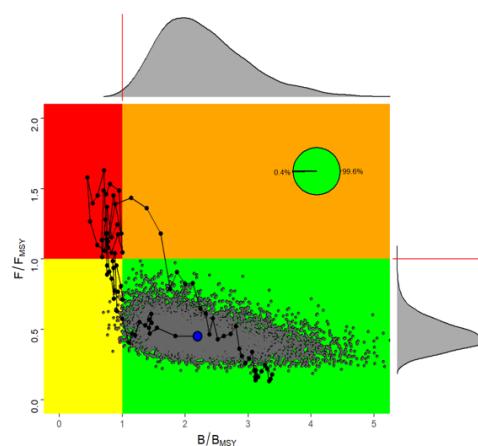
*[]は80%信頼区間を示す。



大西洋におけるピンナガの分布と主な漁場



北大西洋ピンナガの成長曲線

北大西洋におけるピンナガの漁法別漁獲量
(1950～2022年)北大西洋ピンナガの資源における相対資源量(B/B_{MSY})と
相対漁獲係数(F/F_{MSY})の推移(1930～2021年)
黒線: 資源状態の軌跡、黒点: 年別の資源状態、青点: 2021
年の資源状態、灰色点: 2021年の資源状態の不確実性を示す。